

教育課程及び単位制

1 普通科進学重視型単位制について

(1) 本校の単位制の特色

本校は、国公立大学・難関私大進学を目指した進学重視型単位制です。単位制は学年制と比べて教科・科目の選択の幅が広く、生徒の進路に対して、より柔軟にきめ細かく対応・指導することができます。

(2) 単位制による教育課程（時間割）

1年次ではほとんどの科目が必修科目であり、芸術（音楽、美術、書道から選択）を除いて全員が共通の科目を履修します。2年次・3年次には、選択科目の時間数が増え、自分の進路希望に応じて、時間割を組むこととなります（各自が科目を選択します。）ただし、選択科目の中にも、科目群の中から選んでかならず履修しなければならない「選択必修科目」と、進路希望や興味・関心に応じて選択できる「選択科目」があります。

本校のカリキュラム（時間割）のイメージ

(1) 文系国公立大学(地歴(日本史or世界史)＋公民(倫理と政経))の例

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
1年次	現代の国語	言語文化	歴史総合	公共	数学Ⅰ		数学A		化学基礎	生物基礎	体育		保健	音楽Ⅰ 美術Ⅰ 書道Ⅰ	英語コミュニケーションⅠ		論理表現Ⅰ		家庭基礎		総合		L	H	R							
2年次	体育	保健	論理国語	古典探究	数学Ⅱ		数学B		英語コミュニケーションⅡ		論理表現Ⅱ		地学基礎	政経	日本史探究 世界史探究		地理総合		情報Ⅰ		総合		L	H	R							
3年次	体育	論理国語統	英語コミュニケーションⅢ		論理表現Ⅲ		古典探究統(文)		発展日本史 発展世界史	発展政経	倫理	英語アドα 古典研究α	生物研究α	地学研究α 化学研究α	応用数学		数学C		総合		L	H	R									
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32

※網掛けは選択科目

(2) 文系私大の例

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
1年次	現代の国語	言語文化	歴史総合	公共	数学Ⅰ		数学A		化学基礎	生物基礎	体育		保健	音楽Ⅰ 美術Ⅰ 書道Ⅰ	英語コミュニケーションⅠ		論理表現Ⅰ		家庭基礎		総合		L	H	R							
2年次	体育	保健	論理国語	古典探究	数学Ⅱ		数学B		英語コミュニケーションⅡ		論理表現Ⅱ		地学基礎	政経	日本史探究 世界史探究		地理総合		情報Ⅰ		総合		L	H	R							
3年次	体育	論理国語統	英語コミュニケーションⅢ		論理表現Ⅲ		古典探究統(文)		発展日本史 発展世界史	発展政経	倫理	古典研究α	英語アドα	評論研究α	国語基礎β		情報活用		総合		L	H	R									
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32

(3) 理系国立大学(理科(化学と物理)+数学(数学Ⅲと数学C))の例

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
1年次	現代の 国語	言語 文化	歴史 総合	公共	数学Ⅰ			数学A			化学 基礎	生物 基礎	体育			保健	音楽Ⅰ 美術Ⅰ 書道Ⅰ	英語 コミュニケーションⅠ	論理 表現Ⅰ	家庭 基礎	総合	L H R										
2年次	体育	保健	論理 国語	古典 探究	数学Ⅱ			数学B			英語 コミュニケーションⅡ	論理 表現Ⅱ	物理 基礎	物理			化学	地理 総合	情報Ⅰ	総合	L H R											
3年次	体育	論理 国語 統	英語 コミュニケーションⅢ			論理 表現Ⅲ	古典 探究 統(理)	地理探究			数学 ベー シック Ⅳ	数学Ⅲ			数学C			物理 統	化学 統			総合	L H R									
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32

(4) 理系私大(理科(化学と生物)+数学(応用数学γと数学C))の例

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
1年次	現代の 国語	言語 文化	歴史 総合	公共	数学Ⅰ			数学A			化学 基礎	生物 基礎	体育			保健	音楽Ⅰ 美術Ⅰ 書道Ⅰ	英語 コミュニケーションⅠ	論理 表現Ⅰ	家庭 基礎	総合	L H R										
2年次	体育	保健	論理 国語	古典 探究	数学Ⅱ			数学B			英語 コミュニケーションⅡ	論理 表現Ⅱ	地学 基礎	生物			化学	地理 総合	情報Ⅰ	総合	L H R											
3年次	体育	論理 国語 統	英語 コミュニケーションⅢ			論理 表現Ⅲ	古典 探究 統(理)	生物探究			化学 研究γ	応用数学γ			数学C			生物 統	化学 統			総合	L H R									
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32

なお単位制では「1学年・2学年・3学年」という学年による教育課程の区分をせず、「1年次・2年次・3年次」という区分を用います。

(3) ガイダンスにより時間割をつくる

科目の選択が拡がると、生徒の一人ひとりが、どのような目標を持って、どのような科目を履修するかが大変重要になってきます。本校では、進路に向けての意識づくりと科目履修についての指導を「ガイダンス」としてまとめ、一貫性のある支援・指導を行います。そのために進路相談や個人面談の機会も増やし、生徒が進路を決定できるようバックアップします。

進路相談の第一の窓口は担任の先生です。また、進路指導部の先生、教科担当の先生も、専門的な知識をもとにアドバイスしてくれます。わからないこと、判断に迷うことがあれば積極的に相談してください。

※ガイダンスとは、進路に向けての意識づくりと科目履修についての指導をまとめたものです。先生としっかり相談しながら進めます。

(4) 普通科進学重視型単位制で学ぶに当たっての心得

単位制のしくみを最大限に生かすには、生徒一人ひとりが、自分に合った進路目標を持ち、それを実現するために適切な進路計画をできる限り早くたてることが大切です。

科目の選択の幅が広いこともが単位制の特色の一つですが、科目の選択には決められた条件、ルールの中で行わなければなりません。科目選択は様々な条件、ルールをしっかり理解し、把握することが前提となります。

2 学習に関する諸規定

(1) 「単位」「履修」「修得」の意味

「単位」とは 高等学校の教科・科目の学習で、毎週1時間の授業を1年間継続して受講したときの学習量を「1単位」と言います。例えば「現代の国語」は毎週2時間学習することになっているので、「現代の国語」の単位数は「2単位」になります。

「履修」とは 学習している科目を「履修」するためには、その授業に出席して、学習活動を行う必要があります。従って、出席状況が良好で、授業姿勢が良いとき、「履修」が認められます。

「修得」とは 学習している科目の「履修」が認められ、さらに学習活動の成果が一定の水準以上に達していると判断されるとき、その科目の単位の「修得」が認められます。

高等学校の学習では、科目の「単位」の「履修」と「修得」を積み重ねて卒業に至ります。

(2) 「教科」「科目」「講座」の意味

「教科」とは 国語・数学・理科など高等学校で学習する領域を大きくグループ分けするものです。普通科の高等学校では、主に国語・地理歴史・公民・数学・理科・保健体育・外国語・家庭・情報の10教科が設定されております。

「科目」とは 教科の内容をさらに細かく区分したものです。通常、教科書はこの科目ごとに書かれています。例えば、数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学A・数学B・数学Cの6科目は数学に含まれます。

「講座」とは 同じ科目でも単位数が違ったり、学習する範囲が異なったりすると区別する必要が生じます。その場合、科目をさらに細かく区分したものを本校では「講座」と呼びます。例えば、「物理研究」に3単位と2単位のものがあれば、それは別の講座として扱います。科目選択の時など、講座ごとに履修条件が異なる場合があるので注意してください。

(3) 「必修科目」「選択履修科目」「共通履修科目」「選択科目」のちがい

単位制では、多くの科目（講座）が用意されておりますが、それぞれの科目の位置づけをよく理解することが大切です。科目には大別して次の4種類あります。必修科目と共通履修科目を除いて、自分の進路目的に合わせて組み合わせることができます。

「必修科目」 学習指導要領による規程で、高等学校を卒業するために、必ず履修しなければならない科目です。1年次のほとんどの科目は必修科目となっております。その中には、決められた科目群からいくつか選択し、必ず履修しなければならない科目もあります。例えば理科科の科目を履修するには次のようなルールがあります。この他にも同様な教科・科目がありますので注意してください。

選択必修履修科目の例《理科》

化学基礎、生物基礎、物理基礎、地学基礎 から3科目を履修する。

科目によっては2年次と3年次とに講座が分けられていて、二つの講座を継続して履修しなければならない場合もあるので注意が必要です。

(4) HR及び課外活動

単位制では、年次が進むにつれて、選択科目が増え、HR（ホームルーム）クラスでの授業が減ることになります。しかし、充実した高校生活を送るためにHR活動を大切にし、学校行事や課外活動等にも積極的に参加することが大切です。

(5) 定期考査

本校の定期考査は、前期に2回（6月と9月）、後期に2回（11月と2月）の計4回実施されます。この他、教科により宿題確認テスト・実力テスト・小テストなどが行われます。定期考査は通院を要する欠席で、通院を証明する領収書等の提出が認められた場合、事故・傷病による長期入院およびそれに関わる療養、通院等による欠席の場合及び公欠の場合に限り、追考査を受けることができます。

(6) 観点別学習状況の評価・評定

観点別学習状況は、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点別に評価します。各科目のシラバスで示された評価規準に対する実現状況を、「A：十分満足できる」「B：おおむね満足できる」「C：努力を要する」の3段階で評価します。

評定は、これらの観点別学習状況の評価をもとに総合的に判断し、5段階で評価します。教科の特性によって評価基準は各科目ごと違うため、同じ評価結果であっても評定は異なることがあります。各科目の評価基準についてはシラバスで確認をしてください。

(7) 出席について

基礎・基本をしっかりと身につけて応用力を培うには、授業を休むことは、どんな理由であれ決して得になりません。ただし、1年間の間には、部活動での大会出場や、怪我・病気で休まなければならないことがあるものです。

- ① 教科・科目では、出席率が80%以上であれば履修が認められます。
- ② 総合的な探究の時間（ST）については出席率が70%以上であれば履修が認められます。

(8) 卒業要件

- ① 必修履修科目、総合的な学習の時間の履修が全て認められていること。
- ② 特別活動の成果が目標からみて満足できると認められるもの。
- ③ 本校の教育課程において定められた各科目の単位数並びに総合的な学習の時間の単位数の合計が74単位以上であること。